



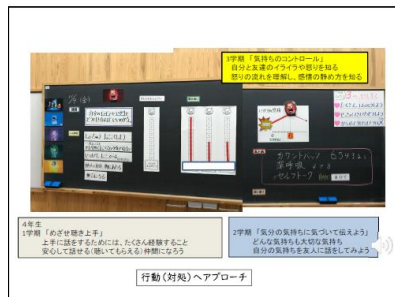
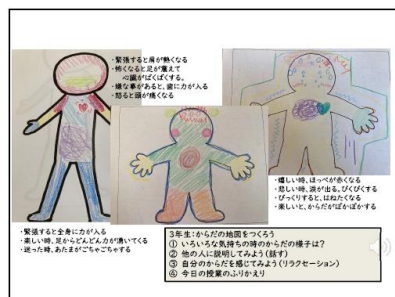
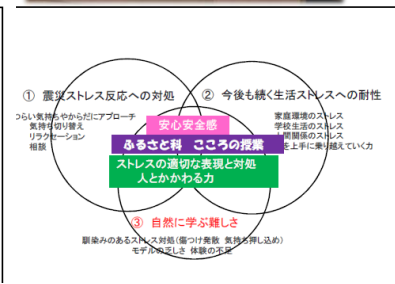
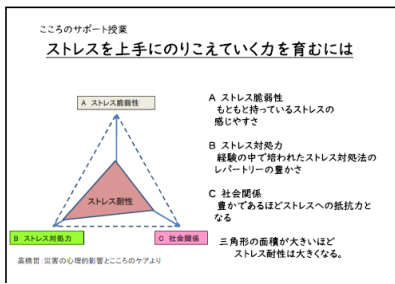
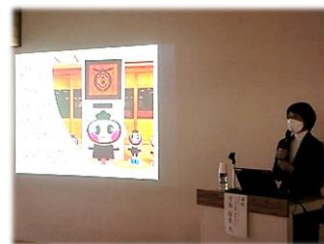
・吉永先生から学ぶ「こころの授業」

震災後の2013年度からの8年間、大槌町のスクールカウンセラーとして子どもたちの心のケアはもちろん、大槌町のこころのサポート体制構築に携わってくださった吉永先生をお迎えし、11月24日(木)に大槌学園で『大槌町の子どもの豊かでたくましい育ちの実現のために』と題した講演会が行われ、45名の先生方や子ども支援関係者の皆様にご参加いただきました。

吉永先生のご講演を通して、震災後の本町の子どもたちの状況や「こころの授業」の創設や実践にかける思いや願いについて、深く感じ、学ぶ機会となり、「こころの授業」の意義やねらいを改めて確認することができました。

吉永先生からは、今後さらによりよい実践とすべく、「ぜひ、『こころの授業』を現在実践している先生方からの生の声もお聞きしたいです」とお話をいただきました。つきましては、以下のURLまたはQRコードから、実践を通して感じた悩みや疑問、提案等をお寄せいただければと思います。ぜひ町内全教職員のお知恵とお力を結集して改善を図りながら、これからも目の前の子どもたちに即したよりよい実践として継続できるよう、お力添えをお願いいたします(小原)。

<https://forms.office.com/r/rgNjHAXpgR>



吉永先生講演資料より(後日、講演動画と資料をTeamsにアップします)



・先進地から学ぶ③

先進地から学ぶシリーズは、今回が最終回です。京都市立大原小中学校(大原学院)を紹介します。大原学院は、京都市の北部の山間にあり、全校児童生徒90名の小規模の小中一貫教育校です。

児童生徒数の減少が課題でしたが、魅力ある学校づくりを進めた結果、過疎地でありながら児童生徒数が増加傾向にあり、現在100名の学校を目指しているそうです。

魅力ある学校づくりとして、豊かな自然を生かした探求的な学び、地域の特色を生かしたキャリア教育、1年生から始まる英語活動に力を入れています。9年生の英語の授業はオールEnglishで行われていました。

コミュニティ・スクールも根付いており、学校運営委員会の理事長が校舎の案内をしてくださるくらい、地域が学校と一緒に学校運営をしていることが印象的でした。また、校舎には、地域からの要望で、子育て支援ルーム、保育園、学童が整備されていました。



- 4・3・2制で、一貫性、継続性を大切に、10歳と13歳で生活・学習の見極めをする。
- 4年生と7年生でブロックリーダーを育てる。
- 5年生から50分授業を実施し、算数・英語・理科・体育・社会・家庭・図工は中学校教師によるTT授業・専科指導を行う。